

錦織 圭のショットは、どこがスゴイ!?

連続写真で見る 錦織 圭の 最新テクニック



NISHIKORI

錦織 圭



テニス界に彗星のごとく現れた錦織圭。彼が世界のトッププロと対等に戦えるのには、理由がある。ロジャー・フェデラーやノバク・ジョコビッチと同じように、相手のプレーを予測して、相手に時間を与えないプレーが出来るからだ。それが出来るのも、まず、主導権を奪えるようないいショットを持っているから。錦織の連続写真から、彼のスゴイ所、そして、一般プレーヤーが学べる所を探ってみよう。

指導 / 村上武資



ダンロップスポーツ(株)所属。メガロステニス・アドバイザー。相模原グリーンジュニア・ヘッドコーチ。ロイヤルヒル'81テニスクラブ・アドバイザー。ジュニアデ杯監督も務め、錦織圭のテニスはジュニアの頃から見続けている。

取材 / 石渡玲子
撮影 / 佐々木 啓 (レッスン) 村上 航 (プレーヤー)
撮影協力 / 大正セントラルテニスクラブ新宿

01 Takeback

コンパクトなサーキュラーズウィングで、遠心力を使って打つ

テークバックは、ラケットヘッドを立てた状態で準備して、コンパクトなサーキュラーズウィングで打つ。ラケットヘッドを横にして引くストレートテークバックが直線的な軌道なのに対して、サーキュラーズウィングは、半円を描くようにラケットが出ていく。ラケットの自然な遠心力を使ってスウィング出来るので、スピードを出しやすいというメリットがある。

サーキュラーズウィングなら遠心力を使える



錦織 圭のバックハンド

錦織のバックハンドストロークは、コンパクトなサーキュラーズウィングから、厚い当たりでパンと弾くように打つ。懐が深いので、クロスに打つのか、ストレートに打つのか、相手から読まれにくい。“フォアハンドの錦織”といわれるが、実は、バックハンドにも力がある。バックのクロスラリーでは、少しでも甘くなると、相手にフォアに回り込まれてしまうが、錦織は、バックハンドのラリーから先に主導権を取る場面が多い。バックがいいから回り込みフォアでエースが取れるのだ。

KEI

Hitting Zone

懐が深いので、クロス、ストレート、どちらに打つか分からない

インパクト直前のフォームを見ると、グットと肩が入った状態でボールを引き付けている。これをいわゆる「懐が深い」というのだが、フォア、バックどちらに打つか、相手に読まれにくいフォームだ。

このテイクバックから、インパクトではボールをゾーンで捕らえて打つ。ヒッティングゾーンが広いので、同じ構えから、少し打点を前にしてクロスに打つ事も、少し打点を遅らせてストレートに打つ事も出来る。



ボールをヒッティングゾーンの中で捕らえる



知識

錦織のバックハンドは、ヒッティングゾーンが広いので、ちよつと体を逃がしてストレートのリターンエースを取ったり出来る。

Swing

スピンをかける時は縦振り、スピードを出す時は横振りでスウィング

連続写真は、クロスに深いショットを打っている所だが、さらにクロスに角度をつけたショットを打つ時は、打つ前にラケットヘッドを落としておいて、キュッとスピンをかけて打つ。また、ストレートにスパーンと速いショットを打つ時は、ラケットヘッドを落とさず、そのまま前にスウィングする。そうすると、しっかりボールを叩く事が出来る。

錦織は、このようにラケットを横振りにしたり、縦振りにしたりして、ボールに変化をつけるのがうまい。

フラットドライブで打つ時は、ヘッドを落とさずに横振りスウィング



懐が深いので、どっちに打つか分からない

錦織 圭
Kei Nishikori

スピンをかける時は、ラケットヘッドを落として縦振りスウィング